

平成30年度和歌山県文化奨励賞

きね や た か かた おか あき こ
杵屋 多佳 (本名 片岡 明子)

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和27年

◎ 業績及び経歴

昭和43年に長唄家元杵屋俊二（13代目杵屋喜三郎）に入門、昭和46年に名取を許され、杵屋俊叟となり、関西での演奏や舞台公演に多数参加する。

平成19年に芸名を杵屋多佳と改め、和歌山・大阪を中心に、長唄三味線の演奏者養成に努めている。

また、県内では数少ない邦楽演奏家である囃子方で氏の夫・藤舎呂鳳氏と「かしくの会」を和歌山市で主宰し、初心者の手ほどきからプロの演奏家の養成まで、長唄三味線や囃子、座敷唄など三味線音楽の伝承・普及に長年にわたって取り組んでいる。

特に、近年は和歌山の伝統文化の活性化にも積極的に携わり、平成24年には紀州東照宮の祭礼である和歌祭の餅搗踊（もちつきおどり）の囃子音楽の復興や、平成30年度文化庁支援事業である長唄と田辺祭の囃子「田辺祭を世界に発信！」に尽力。また、和歌山市の歓楽街新内（あろち）でかつて栄えた花街に伝承されたお座敷文化をテーマにしたワークショップの企画など、和歌山城下の伝統文化を継承する活動も積極的に行っている。

そして、平成27年からは毎年、関西大学博物館で文化庁と関西17大学博物館の連携的取り組み「大学の扉を開く」において、「上方唄」、「黒御簾音楽」、「文楽・長唄・囃子・ギターとの三番叟」を企画し、出演している。

さらに、和歌山県人会「シアトル紀州クラブ」110周年記念式典出演をはじめ海外でも演奏を披露する等、新しい邦楽の可能性を探求しており、活動の幅は国境やジャンルを超え広がりを見せている。

このほか、県内外の若い世代のミュージシャンとの音楽交流イベントも精力的に行い、ジャンルを問わずに幅広い交流の輪を広げ、邦楽とクラブ音楽とのコラボレーションなど、音楽を通じた新しい和歌山の文化の振興にも貢献し注目を集めている。

このように氏は、幅広い音楽活動を展開しており、奏者としてまた指導者としても今後一層の活躍が期待されている。

■ 現 在

- ・邦楽グループ「かしくの会」主宰
- ・長唄三味線方
- ・一般社団法人
長唄協会関西支部会員・事業部委員

◆ 主な表彰歴等

昭和47年 和歌山市東廓料理組合奨励賞